

科目名	在宅看護学演習 I Home Care Nursing Seminar I		担当教員 (研究室番号)	六角 僚子(405)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	ryoko.rokkaku@mcn.ac.jp						
履修年次	1年次前期	科目区分	専門科目		選択区分	コース必修	単位数(時間)	2(30)		授業形態	演習	科目等履修生	否
											遠隔授業	否	
科目目的	<p>看護現象を科学的に分析、評価するため、周辺科目と当該科目を関連させながら、根拠ある在宅での看護実践を理解する。</p> <p>本科目では、療養者の事例を分析する一連の能力を身につけることで、自己の課題を明確にし、改善するための方法を見いだす、すなわち、自己評価や自己教育力を養うことを目的とする。具体的には、学生は自分の関心のある在宅でのテーマを選択し、グループ別に学習を進める。必要に応じて、学生はフィールドワークを行う。また、患者会、病棟や地域連携部門などでの検討会にも積極的に参加し、そこで得た学びをさらに討論会を通して理解を深める。ここでは、在宅看護学全般に関するテーマを対象とする。</p>												
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追及していける研究能力を身につけている。											
	関連するDP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。											
到達目標	<p>1. 倫理的判断、臨床判断に基づき、地域の特性を考慮した在宅看護過程の事例を査定し、援助方法を探究する。</p> <p>2. 家族内コミュニケーションについて理解し、療養者と家族の把握に応用する。</p> <p>3. 療養者・家族への在宅看護サービスに関する関連機関および多職種とのチームアプローチについて探求する。</p>												
成績評価方法(基準)	授業への参加度(準備性・積極性)30%、授業への貢献度やプレゼンテーション40%、レポート(授業でその都度課題を提出する)30%												
教科書	教科書も随時指示していく												
参考書等	参考文献および資料は適宜指示する。												
受講者へのメッセージ	主体的な取り組みを期待する。												
備考													
回	学習項目			学習内容					主担当教員	授業方法			
1回	在宅看護における神経難病の看護			<p>文献検索</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の神経難病の医療と看護について調べる。 神経難病患者が在宅療養を継続するための課題との問題点例：病院での死が大多数を占めるのが国の現状、在宅死の希望が強いが現実には病院・診療所の死が8割以上の現状等について整理する。 近年の特徴として、人口動態、一人暮らしの増加等について整理する。 発表と討論を組み合わせる。 神経難病の中でもALSに焦点を当てる。 ALSに関する知見を発表して共有する。 					六角	演習			
2回	在宅看護における神経難病の看護												
3回	神経難病患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1)(2)			ALSを中心とした事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。					六角	演習			
4回	神経難病患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1)(2)			ALSを中心とした事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。					六角	演習			
5回	人工呼吸器等の医療機器を装着して在宅療養をしている方と家族への看護の実際			<ul style="list-style-type: none"> 在宅で気管切開し、人工呼吸器療法を受ける対象を支援する専門職、非専門職のネットワークと訪問看護師の役割 病態に応じたコミュニケーション手段の確立の援助 日々の人工呼吸器の管理と観察事項、業者との連携ポイント 気道の清浄化のためのケア(加湿・吸引等)と感染防止 気管切開部の保護と処置(医療者の処置と家族の処置) 栄養評価と栄養摂取の援助 身体の保清と排せつの援助 その人らしい生活と生き甲斐への援助 介護家族のレスパイト 主治医、入院病棟や外来看護職との密な連携 安全な高カロリー輸液療法のための観察と家族指導 食べる楽しみの喪失に対する援助 					外部講師予定	演習			
6回	人工呼吸器等の医療機器を装着して在宅療養をしている方と家族への看護の実際								六角				
7回	終末期がん患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1)(2)			終末期がん患者と家族の事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。					外部講師予定	演習			
8回	終末期がん患者と家族を支える在宅ケアマネジメント(1)(2)			終末期がん患者と家族の事例を通して在宅ケアマネジメントの知識を深める。					六角	演習			
9回	在宅ホスピスケア、在宅ケアの現状と課題			在宅ホスピスケアシステムの構築の理解を深める。					外部講師予定	演習			
10回	在宅療養を支援するケアマネジメント			医療依存度の高い療養者を支える在宅ケアマネジメント					六角	演習			
11回	在宅療養を支援するケアマネジメント			医療依存度の高い療養者を支える在宅ケアマネジメント					六角	演習			

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
12回	事例検討(1)	院生から事例を提供・プレゼンテーションし 討論から事例について検討する。(1) 例：・療養者と家族との調整に多大なエネルギーを要した事例 ・多機関・多職種との連携で成功したあるいは失敗した事 例など	六角	演習
13回	事例検討(2)	同上	六角	演習
14回	事例検討(3)	同上	六角	演習
15回	院生による主体的seminar <まとめ>	討議のうえ、教員と共に決定する。	六角	演習